

教科書の活用について

今年度の終わりを迎えるにあたって、教科書を見直していたところ、教科書の巻末に次のような文章があることに気づきました。

●保護者の皆様へ

はじめて手にするものを見る赤ちゃんの目は好奇心できらきら輝いていますね。お子さんが、この好奇心をずっと持ち続けて成長して欲しいと誰でも思うことでしょう。現代社会は日進月歩の技術に支えられていますが、その技術の基礎は好奇心を持ち続ける「科学する心」にあります。忙しい時代では、多くの人が何が不思議なのかを考えることすらなくなりました。保護者の皆様もぜひお子さんと一緒に、この教科書で「科学する心」に触れてみませんか。皆様にも新しい発見があり、会話も弾み、お子さんの学ぶ意欲もきっと高まるでしょう。保護者の皆様と一緒に学ぶ教科書になってほしいと思います。(岡村定矩) 東京書籍の教科書「新編 新しい科学 1」より

今から35年ぐらい前、「近々、針がいらぬレコードが出るみたい」ということが話題になりました。今では当たり前になった「CD」のことです。当時は、「針無しでどうして音が出せるのか？」ととても不思議に思いました。調べてみると光の針で、CD上の細かな穴の有無と長さを読み取ることがわかりました。ただ、どうしてこれで音になるのかは理解できませんでしたが・・・。

「不思議だな」と思うと自分で調べて分かってしまします。これが正に「勉強する」ということだと思います。

しかし、現在の音楽プレーヤーは、レコードやCDのように回転するものさえなくなり、とっても小さなメモリーチップの中にCD数百枚分の音のデータが入っています。これについては「不思議だな」とも思わず、「そういうもの」と解釈していたように思います。

子どもに「何をきっかけに勉強を好きになるか」を調べた調査があります。結果は、「知的好奇心が刺激される勉強は好きになる」というものでした。つまり、「なぜ?」「どうして?」と不思議に感じるものが、「知りたい!」という思いになって、「なるほどね」「そうなのか」と自分なりに納得できた時に、学ぶことの面白みとか、楽しさが実感できて、学ぶことが好きになるということです。

『勉強しなさいと言わずに成績が上がる!すごい学習メソッド』(永岡書店)の著者である藤野雄太さんは、進んで勉強する子にするためには、「知的好奇心を刺激する」ことが大切だと書いています。このほかにも必要な要素を2つ指摘しており。ひとつは「ほめる」こと、もうひとつが「一緒に勉強をする」ことを上げています。上記の岡村氏が書かれていることと正に重なります。

新学期が始まると、子どもたちは、新しい教科書を持って帰りますので、どんなことを学習するのか、教科書の中身に目を通してみてください。国語の教科書だと、保護者の皆様が中学生の頃に習った物語が現在も掲載されていたり、音楽の教科書では、ビートルズの曲が載っていたりもします。

少し先になりますが、平成30年度の教科書展示が、6月15日(金)～28日(木)の2週間、全国の図書館で行われます。瑞穂市図書館でも展示されると思いますので、時間がありましたら、是非足を運んでみてください。

ちなみに、藤野氏は「理科で最強の参考書は学校の教科書です。市販されている参考書でも塾のテキストでもありません。これほど写真や図が載っていて、わかりやすくまとめた参考書はありません。」と述べています。親子の会話にも、大いに活用していただくとありがたいです。

